

高田賢三さん遺作の緞帳完成 故郷姫路で7月お披露目

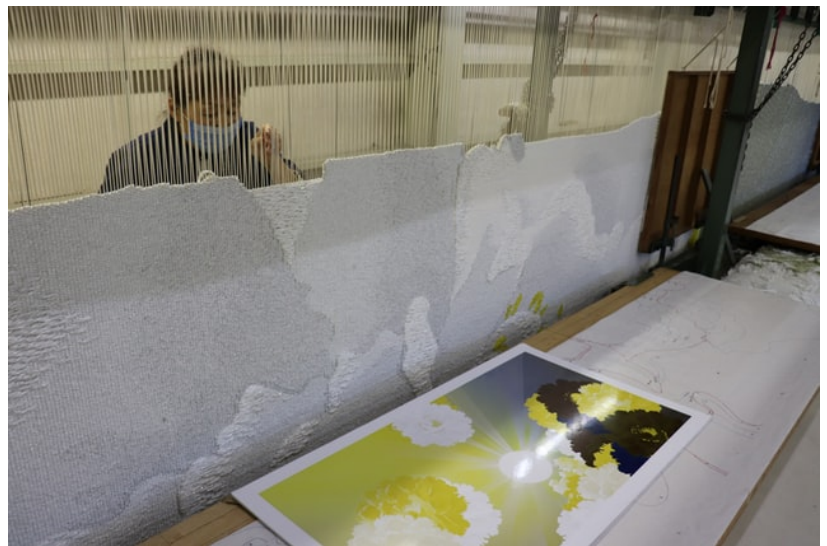
2021/04/03 11:00 日本経済新聞電子版 687文字

2020年に亡くなった世界的ファッションデザイナー、高田賢三氏の遺作となる緞帳（どんちょう）2枚が完成した。太陽とシャクヤクの花などをモチーフにした作品を住江織物の子会社が9カ月かけて手作業で織り上げた。500色以上の糸を使って、グラデーションや太陽光など原画のデザインを忠実に再現した。

緞帳は高田氏の故郷、兵庫県姫路市の文化施設「アクリエひめじ」で7月にお披露目される。高田氏はファッションブランド「KENZO」の創設者。世界を舞台に活躍する一方、故郷への思いも強かったという。姫路市や地元企業の依頼を受けて、18年に緞帳の原画2枚をデザインした。シャクヤクは洋服にも多く使い、海外でも日本でも夕日をよく眺めていたという。これに姫路城を加えたデザインにした。



斜めに走る太陽光やシャクヤクの花びらが印象的な中ホール用の緞帳



シャクヤクの花びらが重なり合う姿を丁寧に織り上げる

住江織物子会社の丹後テクスタイル（京都府京丹後市）は、原画の色のグラデーションを表現するため500色以上の糸を用意。染色や糸のより合わせで試行錯誤を繰り返した。70歳を超えるOGの手も借りて、熟練の女性9人が大ホール用（幅22メートル、高さ12メートル）と中ホール用（幅18メートル、高さ10.5メートル）の2枚を織り上げた。

立体的な花びらや斜めにまっすぐ走る太陽光などに熟練の技が光る。緞帳は土台となる縦糸に横糸を織り込んでつくるため斜めの線表現するのは難しいという。

制作過程は画像や動画で高田氏と共有。20年末には高田氏が実際に丹後テクスタイル

ルを訪問する予定だったが、10月にパリ郊外の病院で亡くなり、叶わなかった。丹後テクスタイルは「総力を尽くした。高田氏にも満足いただける出来になったと思う」としている。



作業者が横並びになって少しずつ織り上げていく

許諾番号30082392日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.